

●日本体育大学と体育・スポーツ振興に関する協定を締結

7月25日(月)、狭山市は日本体育大学との間に「体育・スポーツ振興に関する協定」を締結しました。



この協定は、市民のスポーツへの関心を高め、子どもの体力向上や市民の健康増進を図ることが目的で、今後は、同大出身の五輪メダリストの講演会や大学施設を活用したスポーツイベントなどを開催していきます。

問合せスポーツ振興課へ内線5711

●狭山市駅西口「駅前広場」に動画が見られるデザインマンホールが登場

二種類のデザインが描かれたシールをステンレスの板に張り付け、マンホールの「ふた」に設置しました。ひとつは「おりぴい」で、もうひとつは、童絵作家・池原昭治氏が描いた「七夕まつり」です。この「ふた」に、専用アプリ「狭山スマートナビ」(市公式ホームページからダウンロードできます)が入ったスマートフォンをかざすと、七夕まつりやこども動物園の動画が画面上に現れ、市の魅力を伝えます。



問合せ下水道施設課へ内線2742

●朝長なつ美選手が五輪出場を報告

7月21日(木)、狭山市出身でリオデジャネイロ五輪近代五種競技日本代表の朝長なつ美選手が市長を表敬訪問し、出場報告と抱負を語りました。



朝長選手は広瀬小学校、西中学校を卒業し、現在は警視庁に勤務しています。

近代五種とは、フェンシング、水泳、馬術、射撃、ランニングの5種目に挑戦する過酷な競技です。

朝長選手は本格的に競技を始めてから3年という期間で五輪初出場を果たされ、「狭山市に生まれ育ち、これまで多くの方々のおかげによって競技を続けてこられました。大好きな狭山市の出身であることを誇りに、全力で戦います」と抱負を語られました。市長からは、「自分の力を信じ、ベストを尽くしてください。市を挙げて応援しています。そして、現地から最高の笑顔をお届けしてください」と激励の言葉が贈られました。

また、母校である西中学校の生徒会役員6名から、応援メッセージを書き入れた日の丸が手渡され、先輩の活躍を願いました。

問合せスポーツ振興課へ内線5711

9月10日(土)～16日(金)は「自殺予防週間」

皆さんの「声かけ」で救える命があります

埼玉県では、平成27年の一年間だけでも1千303人の方が自ら命を絶っています。これは交通事故死亡者数の7倍以上にもなり、とても深刻な状況です。特に40歳～60歳代が全体の5割を占めており、「健康問題」や「経済的な問題」など、さまざまな問題や悩みが連鎖し、自殺に追い込まれてしまう場合が多いといわれています。また、夏休み明けは子どもたちの自殺が多くなるのも特徴です。大切な命を救うために、私たちには何ができるのでしょうか。自殺を未然に防ぐために、周りの人ができることを一緒に考えましょう。

●「気づく」…サインを見逃さない

自殺を考えてしまっている人も、心の中では「生きたい」という気持ちとの間で激しく揺れ動き、行動に何らかの変化が現れやすくなります。周囲の人はそのサインを見逃さず、支援の手を差し伸べる必要があるのです。身近な人に次のような変化は見られませんか？

- ▼元気がない
- ▼体調不良を訴えることが多い
- ▼仕事や家事の能力が低下し、ミスが多い
- ▼遅刻や早退、欠勤が多い
- ▼周囲との交流を避ける
- ▼飲酒量が増えた

●「夏休み明け直後は子どもの自殺が急増」

夏休み明け直後は、大きなプレッシャーや精神的動揺が生じやすく、子どもたちの自殺が急増する傾向にあります。親が子どもの発する

●「気づく」…サインを見逃さない

サインに気づいてあげること、そして、子どもが家庭の輪に入らなかつたり、自室に引きこもつたりしても非難せず「家は安心できる居場所」と感じられるようにすることが大切です。また、子どもは抱えた悩みを同世代の仲間打ち明けられることもあります。子ども達だけでは解決策が見つからないときに、身近な大人に相談できる環境を整えましょう。注意が必要な主なサインは次のとおりです。

- ▼行動や性格が急に変わったように思える
- ▼身なりに構わなくなる
- ▼身の回りのものを整理して大切なものをあげたりする
- ▼自殺をほのめかす
- ▼家出をする

●「変化に気づいたら」

「孤独ではない」「助けてくれる人は必ずいる」ことに気づかせることが大切です。周囲の人が早め

●「支える」…気持ちを尊重し耳を傾ける

声をかけた相手には、心配していることを伝え、真剣な態度で悩みを受け止めてあげましょう。話を聞いた後は、安易に励ましたり、相手の考えを否定したりせず、「話してくれてありがとう」「大変だったね」など、ねぎらいの気持ちを言葉にして伝えることが大切です。

●「つなぐ」…専門家への相談につなげる

早めに専門家に相談できることが大切です。紹介するときは相談場所や日時などを決めてから、相談者に伝えます。下表の相談窓口

■こころの悩み相談窓口

相談窓口	相談日時
保健センター ☎2959-5811	月～金曜日 8時30分～17時15分(精神保健福祉センターは9時～17時、来所相談のみ)、祝日・休日・年末年始を除く
狭山保健所 ☎2954-6212	
精神保健福祉センター(予約制) ☎048-723-6811	
(福)埼玉いのちの電話	相談電話 ☎048-645-4343 24時間受付 こどもライン ☎048-640-6400 18歳以下 金・土曜日15時～21時30分

問合せ保健センターへ ☎2959-5811

ONE for All 市長が走る! ⑩

就任一年を迎えて

暑い夏がやってきました。夏は天の川が最も雄大に見える季節です。織り姫とひこ星が、天の川をはさんで年に一度だけ会えるという七夕の伝説を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

さて、星をテーマにした物語「星の王子さま」の作者、サンテグジュペリは、「地球は先祖から受け継いでいるのではない。子ども達から借りたものだ」という有名な言葉を残しています。

私は、多くの先人たちの努力に

より築かれた狭山市を、次の世代に引き継いでいくことを使命に、市長に就任して早くも1年が経ちましたが、人口減少や経済の停滞など、依然として多くの困難があります。しかし、私たちが努力すれば解決とまではいかなくとも立ち向かうことはできるでしょう。

太陽に向かって咲き誇る「ひまわり」の花は、人々を前向きに元気にさせる不思議な力があるそうです。花言葉は「情熱」。今を生きる人々のみならず、次世代を生きる人々も「ひまわり」のように上を向き、笑顔でいられる狭山市を目指して「情熱一番」をモットーにこれからも頑張っていきたいと思います。



行動力こそが私の原点です

市長の主な動き

- 7/1…狭山市民展
- 7/1・14…企業訪問
- 7/3…青少年健全育成大会一少年の主張一
- 7/7…埼玉県基地対策協議会要望活動
- 7/11…熊本地震被災市町村への職員派遣出陣式、自治会連合会幹事退任者感謝状贈呈式
- 7/25…「あらかわ1」墜落事故殉難者追悼式(七回忌)、学校法人日本体育大学と狭山市における「体育・スポーツ振興に関する協定」締結式
- 7/29…埼玉西部消防組合協議会定例会